維持管理に有利な財源はございません

伊藤 泰樹 議員

人材育成と組織体制について

伊藤 素養の育成の観点から新規採用職員について一定期間基礎研修をして配属してはどうか。

総務部長 来春の採用から見直し、改善ができるよう検討、準備を進める。

公共施設の整備と管理並びに広報的活用について

伊藤 建てる時には有利な財源があっても、維持管理していく時には有利な財源なんて無いんです。維持管理経費のかからない施設整備に努めるべきではないですか。

市長 積極的に省力化に努めていくとともに、脱炭素の計画を作っておりますので、その計画に沿った事業を今後も展開していきたいと考えております。

自主防災組織について

伊藤 自主防災会の活動補助金が使い難いが。

政策監 担当課においてなるべく調整させていただいて、丁寧に対応させていただきたい。

野焼きについて

伊藤 野焼きに関して地域のルール作りはできないか。

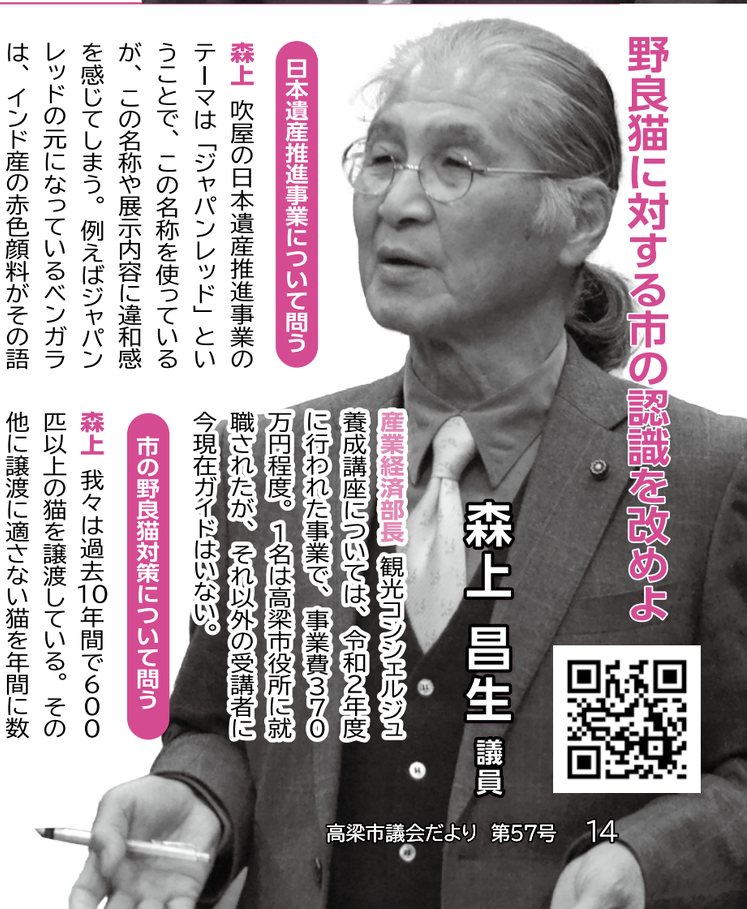
市民生活部長 法の趣旨の説明により、住民同士の相互理解の下、地域の生活、環境保全が図られるよう啓発に努めたい。

住宅リフォーム事業費補助金について

伊藤 介護Uターン者について支援はできないか。

政策監 Uターンを要件としたものはありません。

野良猫に対する市の認識を改めよ



森上 昌生 議員

産業経済部長 観光コンシェルジュ養成講座については、令和2年度に行われた事業で、事業費370万円程度。1名は高梁市役所に就職されたが、それ以外の受講者に今現在ガイドはいない。

日本遺産推進事業について問う

森上 吹屋の日本遺産推進事業のテーマは「ジャパンレッド」ということで、この名称を使っているが、この名称や展示内容に違和感を感じてしまう。例えばジャパンレッドの元になっているベンガラは、インド産の赤色顔料がその語源だと思うが。

産業経済部長 ベンガラの発祥はインドのベンガル地区で、日本のベンガラの発祥地が吹屋との紹介をしている。全て詳細にビデオを見てないので、今後そういった御指摘があれば変更等も考えています。

森上 観光コンシェルジュの養成講座の内容はどういうものであったのか。その役割はどういうものか。さらに現在の状況はどうか。

市の野良猫対策について問う

森上 我々は過去10年間で600匹以上の猫を譲渡している。その他に譲渡に適さない猫を年間に数十匹を不妊・去勢しているが。

市民生活部長 里子や不妊・去勢をしなかったら、どのぐらいになっているかというような試算は、しておりません。

森上 野良猫に餌を与えるなとの看板は給餌が野良猫を増やすという誤解を市民に与えるのでは。

市民生活部長 今後作成する際は無責任なという表現について配慮したい。

森上 その認識を改めてほしいと言っている。

佐与谷川の水質を継続的に検査を

宮田 好夫 議員

住民が使う水の安全性は十分なのか

宮田 佐与谷川で市が水質検査を行っているがその内容はどうか。

市民生活部長 産廃処分場のある吉備中央町との境の場所で生活環境項目の内6項目の検査を毎月、環境基準に定める44項目の検査を年1回行っていて、現在のところ異常な値は出ていない。

宮田 下流住民の安心のために処分場閉鎖後も継続して水質検査を行う必要があると考えるが。

市民生活部長 閉鎖後も当面は調査を行う予定である。

宮田 株式会社吉備クリーンセンターが吉備中央町に新たな処分場を計画しているがが、どのようなものか。

市長 埋立物は燃え殻や汚泥など15種類、面積3万850平方メートル、容積59万6401立法メートルの管理型処分場を計画し、県と事前協議が行われている。

宮田 この処分場の排水は狐谷川に放流し、津川地域市民センター付近で佐与谷川に合流して有漢川に流れる計画になっている。先般県から市へ意見照会を求められたが、市としてどのような対応を行ったのか。

市長 津川地域から反対要請が出されており、地域の不安を認識した上で水質管理や自然環境、生活環境の保全など将来にわたり安心な暮らしが営めるよう県の責任において環境の保全を求めるとともに、事業者への指導を徹底していただく旨の要望書を備中県民局長に直接提出した。

「第23回エデュカーレinたかはし」に議員の有志が参加しました

11月25日に、高梁市図書館の4階多目的室において、「第23回エデュカーレinたかはし」が開催されました。このイベントは、吉備国際大学井勝研究室の学生たちが主催し、学生や市民が集まって、テーマに沿って話し合うイベントで、22人が参加しました。今回は「みんなで語り合う高梁市の挑戦と可能性」というテーマで、高梁市の総合計画の指針である「健幸都市たかはし」を実現するためにはどうすればいいのかを市民や学生さんたちと一緒に話し合いました。

参加者には外国人留学生も多く、困ったときに相談できる場所がない、バイトが少ないなど、普段あまり聴く機会のない生活上の不安や困りごとなどを共有しました。こういったイベントが市民や学生が市政を身近に感じる契機になってほしいと思います。